



脳梗塞の治療と

発症時の注意点をどうして

脳神経外科 主任部長 増岡 徹

今回は、脳梗塞の最新の治療と発症した場合の注意点について、ご説明します。

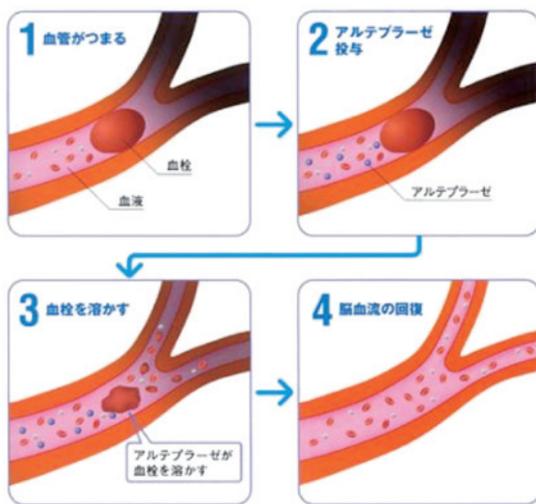
1. 脳梗塞とは…

脳梗塞とは、脳細胞を栄養する血管が何らかの原因で閉塞し、その血管で栄養されていた脳細胞が壊れる事により、運動麻痺や感覚障害などの様々な症状を来す病気です。昔は、脳出血・脳梗塞をあわせた脳卒中が、日本人の死亡原因の1番でした。

現在、様々な薬や外科治療の進歩のおかげで、脳卒中は、癌、心臓病、肺炎に続く4番目の死亡原因となっています。しかし、亡くなる患者数が減少しただけで、高齢化や食事の欧米化などに伴い、脳卒中に罹患される方々の人数は増加しており、半身麻痺や寝たきりなど後遺症で苦しめられている方も年々増加しています。

もし、脳梗塞を発症してしまった場合には一刻も早く治療を開始することが大切です。脳細胞を栄養する血管が閉塞し、脳細胞が完全に壊れるには、数時間かかります。脳細胞が壊れる前、すなわち、数時間以内に閉塞した脳血管を再開通させることが出

t-PA(アルテプラゼ)静脈注射による血栓溶解治療法



れば、脳梗塞にならなくて済むというわけです。

2. 薬は…

現在までに脳梗塞の原因となる脳血栓を溶解する薬は、様々と開発されてきました。2005年よりt-PA(アルテプラゼ)という新薬が、日本でも認可されました。

t-PAは、今までの薬以上に血栓を溶解する作用が強い薬です。しかしながら諸刃の剣という言葉がありますように、血栓を溶解させる作用が強いという事は、逆に副作用として、出血を起こす危険性もあるという事です。そのため、t-PAを使用する際には、多数のチェック項目があります。

脳を栄養する血管が閉塞した患者さんそれぞれに禁忌事項、慎重投与事項がなにか確認して、一定の使用基準を満たした方々にのみ治療を行うことが許されています。

す。その中でも、最も重要なチェック項目は、頭部CT上、新鮮な脳梗塞(脳細胞が完全に壊れてしまった状態)の所見がなく、発症より**4.5時間以内**にt-PAの投与を開始しなければならぬという項目です。

この様に時間的制約があるので、もし、半身麻痺や感覚障害、言語障害を来した場合は、自己判断で様子を見るのではなく、早急に病院に来てください。発見が遅れば、病院に到着する前に、脳細胞が壊れてしまい、治療効果を期待できません。また、どの病院でもt-PA治療を行う事が可能かわけではなく、経験を積んだ脳卒中専門医師がいて、脳卒中ケアユニット(SCU)、集中治療室(ICU)などの脳卒中急性期の治療に対応できる特別な病床を持っている病院にのみ可能です。

当院は、脳神経外科医4人が常勤しており、24時間CT、MRIの撮影が可能です。富山県内においても、t-PA治療の使用において非常に多い実績を有し、t-PA治療による合併症も来していません。皆さんも、もし何か自覚症状が出た場合は、早急に病院に来てください。

3. 予防法は…

もちろん、脳梗塞は、高血圧、糖尿病、高脂血症、不整脈、喫煙などの様々な危険因子が絡み合った結果に発症する病気です。脳梗塞になってからでは遅く、脳梗塞にならないように普段から、食事、運動、生活習慣に気をつけて頂く事が大変重要となります。